

2018年3月1日木曜日 9時06分09秒 日本標準時

件名: Re: 16日の成果発表に関する質問とご回答のお願い

日付: 2016年3月23日水曜日 20時53分25秒 日本標準時

差出人: 村中璃子

宛先: 池田修一

池田先生

お返事ありがとうございました。
記事の方はwedge infidelityにて明日、掲載の予定ですので宜しくお願いします。

村中璃子

2016/03/23 14:09 "池田 修一" <[redacted]>:
村中様

メール拝見しました。HLA geno-typingの結果が表示で、DPB1 05:01 alleleについてその遺伝子頻度とこのalleleをヘテロまたはホモで有している個体頻度をもう少し明瞭に分けて示さなかったことが混乱の原因になったと考えております。鹿児島大学のデータについては高嶋博教授へ直接お問い合わせ下さい。私達が脳障害とした診断根拠等は現在論文にまとめている最中であります。また、HPVワクチン接種が原因ではないだろうと区別した患者さんは病歴、他院での診療データ、さらに所見等が他疾患の診断基準(例えばSLEなど)を満たしている場合に総合的に判断しました。マウスの実験は私ではなく、信州大学の他の研究者が発案して実施しております。私は皮内神経の障害の有無を検索する役割を担っております。このノックアウトマウスは学内の研究室で長年自己免疫疾患の研究に使用しており、免疫異常を引き起こしやすいから使用しているとのことです。実験結果の詳細は研究のoriginalityと論文作成のためお話しすることはできません。電子顕微鏡写真等の個別データの解説は控えさせていただきます。尚、今回公開したデータは事前に厚生労働省の担当部局へも出しております。TBS News23については以前からこの問題をずっと取材しており、今回も合同班会議の後にその発表内容に関連した取材を鹿児島大学を含めて広く取材したと聞いております。また毎日新聞の斉藤記者には16日の発表した後にあの場で質問を受けましたが、事前に情報提供は行っておりません。以上、私の回答できる範囲で述べさせていただきました。

池田修一

池田修一
信州大学医学部脳神経内科、リウマチ・膠原病内科教授
〒390-8621
長野県松本市旭3-1-1
Tel [redacted], Fax [redacted]
E-mail [redacted]

From: 村中璃子 <[redacted]>
Date: 2016年3月22日火曜日 19:07
To: 池田 修一 <[redacted]>
Subject: 16日の成果発表に関する質問とご回答のお願い

池田修一先生

先日はお忙しいところお時間いただきましてありがとうございました。

さて、本日は去る3月16日の成果発表会での発表内容について質問がありご連絡差し上げております。

恐縮ではありますが、執筆の関係上、明日中にご回答いただけますと幸いです。
ご回答いただけない場合には、先生のお考えを反映した記事にできませんこと、どうぞご了承ください。

宜しくお願い申し上げます。

(1) 発表資料p53「鹿児島大学におけるHLA geno-typingについて」の欄外、 $p < 0.001$ とあるが、弊誌で専門家の協力を得て検定を行うとこのようなオーダーのp値にはなりません。計算根拠を教えてください。

(2) 発表資料p53「鹿児島大学におけるHLA geno-typingについて」の「HLA遺伝子アレル頻度(日本人Control)」と、同資料p54「信州大学における脳障害例のHLA検査のまとめ」の「遺伝子頻度(一般日本人)... 出典:HLA研究所」で、同じアレルで値が異なる(ex.DPB1*05:01について、鹿児島大40.70%、信州大38.4%)が、鹿児島大の日本人Controlの出典は何か示して下さい。

(3)発表資料p53「鹿児島大学におけるHLA geno-typingについて」の母集団(N=16または19または21)における患者の疾患定義は何か教えてください。

(4)発表資料p54「信州大学における脳障害例のHLA検査のまとめ」の母集団(N=14)について、脳障害とされる患者の疾患定義は何か教えてください。

(5)発表資料p42「他の病態の鑑別の必要性」で、「HPVワクチンの関連が否定できない98例」と「他疾患25例」に鑑別しているが、他疾患25例との鑑別基準を教えてください。

(6)同資料p43「他疾患と診断した例25例」で、赤字以外の項、例えば「過換気症候群1例」「精神疾患3例」「所見なし(不安、不登校)2例」とあるが、これらは「HPVワクチンの関連が否定できない98例」と明確に区分されているのか。98例の中に心因をきっかけとするものが含まれないと判断できる根拠をご教授ください。

(7)TBS NEWS23は3月16日、成果発表会当日夜に、池田先生のインタビュー画像を流していましたが、この収録日は3月16日より前ではないでしょうか。毎日新聞斎藤広子記者に、成果発表会より前に、成果発表会で発表する内容について、情報を提供していないでしょうか。それぞれ、お答えください。

(8)信州大学において、次の治療法について、過去に行ったことがあるか、現在も実施しているのか、治療成績はどうかを、それぞれ教えてください。

(9)ノックアウトマウスの実験について、実験に用いたマウスの数、ワクチンの投与量など、スタディのデザインや条件を詳しく教えてください。

(10)ノックアウトマウス(NF-kBp50欠損マウス)の選定理由を教えてください。

(11)マウス何匹中何匹にどのような異常が見られたのか詳しく教えてください。

(12)公表されております病理・電顕画像において、どの部分がどのような異常だと考えられるのか、詳しくがご解説ください。

非常に社会的影響の大きい発表でしたので、詳しくご解説を賜れば幸いです。
どうぞよろしくお願い致します。

以上です。

村中璃子

Riko Muranaka MD, MA

<http://www.rikomuranaka.com/>

<https://www.facebook.com/rikomuranaka>

2016年2月8日 17:53 池田 修一 <[redacted]>:
村中様

明日9時でお願いします、12日は出張で都合が悪いです。

池田修一

池田修一

信州大学医学部脳神経内科、リウマチ・膠原病内科教授

〒390-8621

長野県松本市旭3-1-1

Tel [redacted], Fax [redacted]

E-mail [redacted]

From: 村中璃子 <[redacted]>

Date: 2016年2月8日月曜日 17:34

To: 池田 修一 <[redacted]>

Subject: Re: HPVワクチンに関する取材のお願い

池田先生

お世話になっております。

午前9時半となりますと明日9日、もしくは今週金曜日12日にお電話差し上げたいのですが、先生のご都合をお知らせ願えませんでしょうか。

お忙しいところ恐縮ですが、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

村中璃子

2016/02/04 9:46 "池田 修一" <[redacted]>:
村中先生

午前の9時半ですが、明日は臨時の教授会等で駄目です。来週以降にお願いします。

池田修一

池田修一
信州大学医学部脳神経内科、リウマチ・膠原病内科教授
〒390-8621
長野県松本市旭3-1-1
Tel [redacted], Fax [redacted]
E-mail [redacted]

From: 村中璃子 <[redacted]>
Date: 2016年2月3日水曜日 22:20
To: 池田 修一 <[redacted]>
Subject: Re: HPVワクチンに関する取材のお願い

池田先生

ご多忙のところ、本当にありがとうございます。
それでは明日(4日)の21時半にお電話差し上げますが宜しいでしょうか。
どうぞ宜しくお願い致します。

村中璃子

Riko Muranaka MD, MA
[redacted]
<http://www.rikomuranaka.com/>
<https://www.facebook.com/rikomuranaka>

2016年2月3日 17:46 池田 修一 <[redacted]>:
村中先生

御主旨は理解しております。今月は入学試験の時期であり、私は学部長として非常に多忙です。また副学長として本部へ出ていることも多々あります。短時間の電話会談はできそうです。私にとって最もよいのは9時半頃です。

池田修一

池田修一
信州大学医学部脳神経内科、リウマチ・膠原病内科教授
〒390-8621
長野県松本市旭3-1-1
Tel [redacted], Fax [redacted]
E-mail [redacted]

From: 村中璃子 <[redacted]>
Date: 2016年2月3日水曜日 16:42
To: 池田 修一 <[redacted]>
Subject: Re: HPVワクチンに関する取材のお願い

池田修一先生

お忙しいところ、お返事いただきまして恐縮です。

重ね重ね恐縮ですが、肩書きとお名前を出し書かせていただく取材の形ではなく、短い時間でいいので、後学のために先生の御見解をお聞かせいただくということは可能でしょうか。

私はこれまでも池田先生は西岡先生たちとは少し意見を異にする立場から、診療と研究にあたっているのではないかと感じておりました。

また、私自身、ワクチン後ということで診ている少女たちの中に自己免疫性の疾患を患っている子が含まれていても決しておかしくは無いと思っておりますし、症状とHLA型の関係を明るみに出そうとする先生のお仕事は非常に重要であるとも考えております。

お立場はよく理解しておりますが、私をはじめとする多くの医師や患者が、池田先生がこの問題を良い方へ導く希望であるとも感じていると思います。

いま一度ご検討いただけましたら幸いです。
宜しく願い申し上げます。

村中璃子

Riko Muranaka MD, MA

<http://www.rikomuranaka.com/>

<https://www.facebook.com/rikomuranaka>

2016年2月1日 15:50 池田修一 <[REDACTED]>:
村中璃子先生

メールを拝受いたしました。
ご連絡有難うございます。
小生は厚労省の研究班の代表者を務めており、雑誌等のインタビューは極力遠慮しております。
ご理解の程をお願いいたします。
ご協力できず申し訳ございませんが、先生のご発展をお祈り申し上げます。

信州大学 池田修一

2016年1月29日 12:53 村中璃子 <[REDACTED]>:
池田修一先生

初めまして。
日々の診療でお忙しいところ突然ご連絡差し上げてまして申し訳ありません。

私、月刊『ウェッジ』というビジネス誌に子宮頸がんワクチンの副反応問題についての記事を執筆いたしました、村中璃子と申します。
どうぞ宜しくお願い申し上げます。

私もこの問題を医師として書き手として長く追っておりますが、先生の発言と御見解には、一昨年
の線維筋痛症学会の頃より大変興味を持っておりました。

臨床的には器質的な疾患を思わせる患者がいるが、確たるエビデンスがない中、先生の方では特にHLA型に関する検討も進められ日本人に特有な問題である可能性を検討することや試験的な治療法も行うことを通じて、原因解明と治療法の確立に全力を尽くされてきたのではないかと推測しております。

一方で日本でも昨年末、名古屋の調査が中間報告が出て、ワクチン後に現れている24症状のすべてにおいてワクチンとの因果関係よりも年齢との相関関係の方が強いという結果が得られました。

最終報告はまだですが、このように新たなデータが少しずつ揃い、臨床の経験も積み上がっていく中、先生は現状をどう解釈されていらっしゃるのか、また、今後の治療のあり方はどうあるべきかなどについて、是非改めて先生の御見解を伺いたいのですが、お時間いただくことは可能でしょうか。

私の方は週末でも結構ですし、先生が上京の折、少しお時間をいただく形でも構いません。

お忙しいところ大変恐縮ですがご検討いただき、ご都合許すお時間をいくつか挙げていただけますと幸いです。

突然のお願い恐縮ですが、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

村中璃子

Riko Muranaka MD, MA

<http://www.rikomuranaka.com/>

<https://www.facebook.com/rikomuranaka>

池田修一
信州大学医学部脳神経内科、リウマチ・膠原病内科教授
〒390-8621
長野県松本市旭3-1-1

Tel [REDACTED], Fax [REDACTED]

E-mail [REDACTED]
